

11/23  
朝日

# 無料低額診療広がる

治療代払えぬ人病院が減免

## 患者年間延べ700万人

病気になつても治療代が払えず、病院窓口で払う自己負担分の治療代を無料にしたり安くしたりする病院にかけこむ人がいる。普通の診療とはちがう「無料低額診療」<sup>II</sup>という仕組みだ。患者数は年間で延べ100万人近く増えた。年をとつて病気になつたり失業で収入が途絶えたりして、医療を受けにくくなつた人たちが増えている。

大阪市に住む元タクシー運転手(58)は、血液のがんの一種である悪性リンパ腫と糖尿病で二つの病院に通う。どちらの病院も無料低額診療をしていて、窓口で払う自己負担分をただにしてもらつてている。

2011年春、糖尿病が

悪化して倒れた。少し前から営業成績が落ちて給料が減つたため、自己負担で月約3万円の治療代が重荷になり、治療のためのインスリン注射を減らしたからだ。心配した病院から無料低額診療をすすめられた。

その後にリンパ腫で手術

の軽減が適用されるため、その分を回すほか、住民かからの出資金や寄付を募つてまかなく医療機関が多い。受診希望者には、医療機関が設けた基準に沿つて収入などの審査がある。収入は生活保護を一定程度上回る基準が多い。

無料低額診療は戦後、貧しい人のための社会福祉の一環として始まった。財源は医療機関が負担する。一部の医療機関は税金

療保険の協会けんぽに入つて保険料を納め、失業後も国民健康保険に入つて保険料を納め、失業後も

厚生労働省の調べでは、このうち無料低額診療は12年から出る。だが、病気で収入が減り、自己負担の3割分が払えない。妻も高コレステロールで毎月1回、無料低額診療を受けている。

元運転手が通う西淀病院

(大阪市)では、11年から無料低額診療を始めた。13年度には、生活保護を受けている人を除くと、年間で延べ約6200人が無料低額診療を受けたという。人事・総務部長の山本嘉子さんは「普通に生活していくも大病で医療費が払えなくなまる人が増えている」と話す。

20万円の収入は途絶えた。元運転手はずつと公的医療保険から治療代の多くが出る「国民健康保険」の仕組みがあり、窓口で払う自己負担は比較的安く済む。だが、自己負担分を払えず、国民皆保険の恩恵を受けられない人が増えている。全国の年間患者数は延べ10億人近い。

厚生労働省の調べでは、このうち無料低額診療は12年から出る。だが、病気で収入が減り、自己負担の3割分が払えない。妻も高コレ

ステロールで毎月1回、無

料低額診療を受けている。

元運転手が通う西淀病院

(大阪市)では、11年から無料低額診療を始めた。13年度には、生活保護を受けている人を除くと、年間で延べ約6200人が無料低額診療を受けたという。人事・総務部長の山本嘉子さんは「普通に生活していくも大病で医療費が払えなくなまる人が増えている」と話す。

20万円の収入は途絶えた。元運転手はずつと公的医

日本では、公的医療保険から治療代の多くが出る「国民健康保険」の仕組みがあり、窓口で払う自己負担は比較的安く済む。だが、自己負担分を払えず、国民皆保

険の恩恵を受けられない人が増えている。全国の年間患者数は延べ10億人近い。

厚生労働省の調べでは、このうち無料低額診療は12年から出る。だが、病気で収入が減り、自己負担の3割分が払えない。妻も高コレ

ステロールで毎月1回、無

料低額診療を受けている。

元運転手が通う西淀病院

(大阪市)では、11年から無料低額診療を始めた。13年度には、生活保護を受けている人を除くと、年間で延べ約6200人が無料低額診療を受けたという。人事・総務部長の山本嘉子さんは「普通に生活していくも大病で医療費が払えなくなまる人が増えている」と話す。

20万円の収入は途絶えた。元運転手はずつと公的医

